

## 編集後記・・・

■早いもので、本誌の編集に関与するようになって十年になる。「貞子さん」再会「を旗印に故桐野三郎会長の指導のもと早くから本誌同人で、「ワシモ」の名前で薩摩川内市を中心に情報発信して居られる下土橋渡氏と相談しながらやって来た。その間貞子さんの三回忌、七回忌の記録を収録出来た。昨年は、重朝庵王の米寿のお祝いを記録出来た。大勢のお子さん、お孫さん、ひ孫さんに囲まれてのお祝いを拝見し嬉しい限りである。■一方、この十年の歳月は気がつくところから半数以上の方が鬼籍に入られたり、高齢化で投稿出来なくなったりしました。少しずつ新進気鋭の新人にも参加いただき、会食での話も含めて中身の濃い時間を過ごせ「同慶の至りです。■残念なことに新会長の渋谷繁樹氏が病に伏せられました。当初からの同人で毎回洒落な発想と文で本誌に花を添えて来られました。早い復帰を祈念しております。(中西)

■「光陰矢の如し」といいますが、年を取ると特に時間の過ぎるのがはやく感じられてなりません。

これは、老化によって新陳代謝が弱まることに準じて時間の経過を感じる体内時計と呼ばれる生理的な時計がゆっくり進むようになり、その結果、外の動きが相対的に速く感じられるかららしいです。そういう訳なのでしょう、中西編集長の下で編集を担当させてもらうようになってからのあつこいつ間の十年間でした。■本号で新たに元入来郵便局長の米森寿美男さんと広島大学の水田丞先生にご執筆頂きました。また、表紙につきましては、昨年号に続き田原眞理子さんに素敵なイラストを描いて頂きました。ありがとうございました。(下土橋)

「炬ばたセイ談」 第16号

炬ばたセイ談会会長 渋谷繁樹

編集担当 中西喜彦・下土橋渡

事務局T895-1402

薩摩川内市入来町浦之名130

入来院重朝方

TEL・FAX 0996-44-3586

印刷 新大同印刷株 (0996-30-1811)